

---

## 特集：癌治療の最前線

---

### 【巻頭言】

苛原 稔 (徳島大学医学部女性医学教授)

山野 利尚 (徳島県医師会生涯教育委員)

大学病院の重要な使命のひとつに高度先進医療の展開がある。一般病院では実施できない研究的色彩の強い治療法を臨床研究として行い、有効性の評価を報告することは、極めて重要な仕事である。そのために、大学病院としては臨床研究を円滑に進める組織作りや規則の制定が肝要であり、また臨床研究に携わる者は高い倫理性と科学性を身につけなければならない。そしてもうひとつ重要なことは、情報を公開して地域に研究成果を還元する姿勢である。この意味から、本特集で高度先進医療の成績を報告し、一般病院や診療所の先生方に新しい治療法をじっくり知っていただくことは有意義である。

さて、死因の第1位を占める癌に対する治療法の開発は、大学病院が高度先進医療として最も取り組むべきもののひとつである。一般に癌治療は手術療法、化学療法、放射線療法などが行われているが、重要な最近の癌治療にはめざましいものがあり、さまざまな新しい治療手段を臨床に応用できるようになった。そこで、大学病院で行われている高度先進医療のうちで癌治療を取り上げ、特に最近注目されている治療法について、「癌治療の最前線」と題した特集を計画した。

すなわち、分子制御内科学の西岡先生からは、肺癌に対する癌抗原ペプチドパルス樹状細胞を用いた癌ワクチン療法の第1相臨床試験成績を報告していただく。この樹状細胞を用いた方法は、現在最も期待されている免疫学的治療法である。次に、臓器病態治療医学の玉木先生からはラジオ波焼灼療法を用いた肝腫瘍治療を、さらに脳神経外科学の影治先生からは悪性神経膠腫に対する中性子捕捉療法を報告していただく。これらの治療法は有効性が確定されれば、非観血的治療法として今後広く行われると考えられる。最後に、これらの高度先進医療の臨床研究を支援する部門として、徳島大学病院では「臨床試験管理センター」を設置しているが、その専任の助教授である楊河先生から、臨床試験管理センターの仕組みと徳島大学での臨床試験の現状を報告していただく。

これら4人の徳島大学医学部の新進気鋭の若手教官は、各科領域の癌治療の第1人者であり、最先端の治療が紹介されるものと期待している。特集の企画を担当する者として、この特集が読者の研修の一助になれば幸いである。